



2026年7月6日

各位

会社名 株式会社 大光
代表者名 代表取締役社長執行役員 金森 武
(コード番号：3160 東証スタンダード市場)
問合せ先 取締役常務執行役員 秋山 大介
管理本部長兼総務部長
(TEL. 0584-89-7777)

特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

2026年5月期におきまして、下記のとおり特別損失を計上するとともに、2025年12月19日に公表しました業績予想を修正することといたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上

2026年5月期決算において、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当社の保有する一部の資産について、現在の事業環境を踏まえ個別にその投資額の回収可能性を判断した結果、減損損失2億55百万円を特別損失に計上する見込みとなりました。

2. 業績予想の修正

(1) 2026年5月期通期連結業績予想数値の修正(2025年6月1日～2026年5月31日)

(単位：百万円)	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	78,600	660	820	550	38円12銭
今回修正予想(B)	79,549	159	339	56	3円93銭
増減額(B-A)	949	△500	△480	△493	
増減率(%)	1.2	△75.8	△58.6	△89.7	
(ご参考)前期実績(2025年5月期)	74,880	811	845	523	35円63銭

(2) 修正の理由

売上高につきましては、前回発表予想を上回る見込みではありますが、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、前回発表予想を下回る見込みとなりました。

外商事業においては、外食チェーン得意先との新規取引開始が売上高増加に寄与しているものの、得意先への一括物流の組み立てにおいて想定を上回るイニシャルコストを要したことなどが営業利益の減少要因となりました。

水産品事業においては、当初は中国向け帆立貝の輸出版売を計画していましたが、中国への輸出が不可能となり、他国への加工販売など新たなスキームを組み立て、保有していた商品につい

〒て評価損を計上したことなどが営業利益の減少要因となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、営業利益の減少要因に加え、「1. 特別損失の計上」に記載のとおり特別損失を計上したことから、前回発表予想を下回る見込みとなりました。

※ 本資料に記載されている業績予想は、発表時現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上